**令和元年度社会福祉法人しいの木会事業報告**

**◆法人事業報告**

　令和元年度、懸案事項の給水設備については、助成金の申請を行うとともに、市原市の水道事業課、福祉課に問い合わせをした。助成金が出る可能性はゼロではないが、はっきりとした回答は得られなかった。現在使用している井戸については、月に1～2回塩素の確認をし、不備があった時また、異臭が確認された時は、業者に依頼し水質の安定を図った。来年度も引き続き検討をしていく。

　大型台風の影響により、シーモックが4日間休業したこと、また、新型コロナウィルス関連で利用者の休みが増えたことなど、利用率の落ち込みが収入減の原因と考えられる。2月3月は販売、納品ができずお菓子の売り上げも下がっている。平均利用人数は昨年と比べ1.3人減っている。

　　　　　　　　　　　　（役員会等の実施状況）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施日 | 種別 | 参加者 | 決議事項 |
| 5月28日 | 理事会 | 理事6名/ 4名監事2名/ 2名 | ・平成30年度事業報告および計算書類の承認・令和元年度事業計画および予算の承認・定款変更の承認・日本政策金融公庫借り入金に法人資産の担保提供 |
| 6月15日 | 評議員会 | 評議員7名/ 6名理事6名/ 6名監事2名/ 2名 | ・平成30年度事業報告および計算書類の承認・令和元年度事業計画および予算の承認・定款変更の承認・日本政策金融公庫借り入金に法人資産の担保提供 |
| 6月15日 | 理事会 | 理事6名/ 6名監事2名/ 2名 | ・理事長の選任 |
| 11月26日 | 理事会 | 理事6名/ 6名監事2名/ 2名 | ・第１回補正予算の承認・職員就業規則改定の承認、給与規程改定の報告・渡邊氏の理事候補の選任・喜多氏の評議員候補の推薦　・定款変更 |
| 12月3日 | 評議員会 | 評議員7名/ 5名理事2名監事1名 | ・第１回補正予算の承認・職員就業規則改定の承認、給与規程改定の報告・渡邊氏を理事に選任・喜多氏を評議員に推薦　・定款変更 |
| 12月20日 | 評議員選任・解任委員会 | 評議員選任・解任委員　　　　　3名/3名理事2名 | ・喜多氏の評議員選任 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 3月24日 | 理事会 | 理事6名/6名監事2名/1名 | ・第2回補正予算の承認・令和2年度当初予算の承認・令和元年度事業計画および令和2年度事業計画の承認・定款の改定・経理規程および経理規程細則の改定・室屋監事辞任に伴う後任理事の選定・役員、評議員、選任・解任委員報酬規程 |
| 3月28日 | 評議員会 | 評議員8名/8名監事1名理事3名 | ・第2回補正予算の承認・定款の改定・室屋監事辞任に伴う後任理事の選定・役員、評議員、選任・解任委員報酬規程 |

**◆シーモック事業報告**

令和元年度は、大型台風や新型コロナウィルスの影響を受け、4日間の休業、販売の中止、納品できない時期が続いた。利用者の人数は増えたものの、平均実利用人数は昨年に比べ1.3人減となっている。作業種についても新たなものは見つからず、来年度に引き継ぐ形となった。生活介護の平均実利用人数は、0.3名増となった。

**◆各部署の報告**

1. 就労継続支援B型（定員40名・利用者49名）

就労継続支援B型の平均実利用は、　　　　　　　　　　※（　）は昨年の数

1日当たり　シーモック31.8名（34.2名）プチ・シーモック5.5名（4.7名）

　　　　　　　　　　　　　　　計37.3名（38.9名）

≪シーモック≫

1. 調理室（利用者12名）

今年度は特別支援学校からの実習生はいなかったが、年度途中に2名の体験を行い利用につながった。台風の影響（停電）で、菓子の材料を処分しなくてはならない状況になったが、皆さんのご協力のもと、繁忙期を乗り越えることができた。

1. 袋室（利用者17名）

4月と11月に各1名、計2名利用者が増えた。今まで取り組んでいなかった作業にも取り組むなど、利用者個々のスキルアップにつながっている。食品表示法施行に伴い、成分表示を追加したシールへの変更を行っている。

1. 2グループ（利用者14名）

受注作業が増え、クッキー詰めと受注作業が主な作業となった。受注内容は様々で、利用者に合わせて受けている。誰もが携われるように作業を分割し提供している。対応できる作業も少しずつ増えてきている。

ここ何年か行っていた、いちじくの乾燥作業は調理室で行った。１月より新利用者2名（調理室所属）が午後2グループで作業を行っている。

≪プチ・シーモック≫　（利用者6名）

シーモックの利用者1名の実習を行い利用となった。宣伝用の黒板を置くなど知名度アップを図ったが、あまり効果は見られなかった。

パンの販売先を増加したことで、前年度より売り上げを増やすことができた。利用者の作業として、生地の仕分けやパンの袋詰め等を行い、作業が活気あるものになるよう努めた。

1. 生活介護（定員7名・利用者9名）

生活介護の年間の平均実利用は、1日当たり7.2名（6.9名）

男性5名、女性3名の計8名の利用者でスタートした。6月から男性1名の利用が開始し計9名となった。

活動内容はリサイクル作業（ ペットボトル・シュレッダー ）を中心に、　　　　創作活動、近隣の公園散策、買い物等を行った。また、健康維持のため、散歩、体操、踏み台昇降を行った。利用者のペースに合った個別の活動を提供した。

月1回のお楽しみ会は、主に調理とレクリエーションを行い利用者の楽しみ、励みとなった。

日帰り旅行は小湊鉄道のトロッコ列車を楽しんだ。

1. 相談支援

サービスの更新や新たなサービスを希望された時、アセスメント・モニタリングを行い、サービス等利用計画書の作成を行った。

令和元年度は計画書の作成数は延べ60件、モニタリング実施数は延べ107件だった。

（現在相談支援を受けている人数）

・シーモック利用者45名（うち令和元年度新規利用者2名）

・法人外からの依頼16名

1. 日中一時支援

余暇活動の年間の平均実利用は、1日当たり29.9名（30.6名）

利用者の地域生活を就労支援等に限らず幅広く支える意味で、週末の余暇活動（希望者）を行った。年間計画に基づき計21回の活動を行った。3月は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、外部での活動を自粛した。もう一方の目的として緊急利用の受け入れも行うとしているが、今年度の実質利用はなかった。

（活動内容）

三和中学校でのよさこい、ボッチャ、映画鑑賞、バーベキュー、

公園散策、ランチカラオケ、工作（デコ傘作り）、パン作り体験

デザート（いちごパフェ）作り他、室内レク等

1. グループホーム

年度当初の利用者は、ホームどんぐり3名、ホームたんぽぽ7名の計10名

でスタートした。ホームたんぽぽでは、家族関係の問題について相談があり、本人、家族、関係機関と相談の結果、体験利用を経て正式に利用となった。しかし、希望により2か月で家庭引き取りとなっている。一方、ホームどんぐりでは、家庭の事情により11月より本利用が始まるが、宿泊は伴わず朝夕のみ利用されている利用者がいる。

　　　　　 （本年度の体験利用）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　名 | たんぽぽ | どんぐり | 備　考 |
| 20代女性 | 体験利用5回 |  | 利用となるが2か月で退所 |
| 20代女性 | 体験回数5回 |  | 体験継続中 |
| 20代男性 |  | 体験回数4回 | 体験継続中 |

　　　　　 （月別入居者状況）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 日 | たんぽぽ | どんぐり | 合 計 |
| 4月　1日 | 7名 | 3名 | 　10名 |
| 9月　1日 | 8名 | 3名 | 　11名 |
| 11月 1日 | 8名 | 4名 | 　12名 |
| 11月 12日 | 7名 | 4名 | 　11名 |
| 3月31日現在 | 7名 | 4名 | 　11名 |